

令和7年9月定例会 総務委員会（事前）

令和7年9月8日（月）

〔委員会の概要 公安委員会関係〕

出席委員

委員長	古野	司
副委員長	岡本	富治
委員	福山	博史
委員	眞貝	浩司
委員	立川	了大
委員	庄野	昌彦
委員	近藤	諭
委員	梶原	一哉
委員	達田	良子

議会事務局

議事課長	郡	公美
議事課課長補佐	小泉	尚美
政策調査課課長補佐	幸田	俊樹

説明者職氏名

〔公安委員会〕

警察本部長	児玉	誠司
警務部長	北	啓二
警務部参事官兼首席監察官	田中	功
生活安全部長	前川	伸二
刑事部長	平岡	信吾
交通部長	勝瑞	忠
警備部長	田村	聡
警務部企画・サイバー警察局長	坂東	玲
刑事部首席参事官兼刑事企画課長事務取扱	茨木	基良
警務部参事官兼企画・サイバー警察局総務企画課長	坂東賢太郎	
警務部参事官兼会計課長	富永	健
警務部参事官兼警務課長	富田	勲
生活安全部参事官兼生活安全企画課長	熊野	宏明
交通部参事官兼交通企画課長	南谷	雅彦
警務部監察課長	日下	達也
警備部警備課長	山本	英児

【提出予定議案等】（説明資料）

- 議案第 1 号 令和 7 年度徳島県一般会計補正予算（第 4 号）
- 報告第 4 号 損害賠償（交通事故）の額の決定及び和解に係る専決処分の報告について
- 報告第 7 号 損害賠償（取締行為に伴う物損事故）の額の決定及び和解に係る専決処分の報告について

【報告事項】

- 阿波吉野川警察署庁舎整備民間活力導入可能性調査状況報告について（資料）

古野司委員長

ただいまから総務委員会を開会いたします。（10時35分）

直ちに議事に入ります。

これより当委員会の閉会中継続調査事件を議題といたします。

まず、公安委員会関係の調査を行います。

この際、公安委員会関係の 9 月定例会提出予定議案等について理事者側から説明を願うとともに、報告事項があればこれを受けることにいたします。

北警務部長

私からは、お手元の総務委員会説明資料に掲載の令和 7 年度一般会計補正予算案について、御説明申し上げます。

まず、説明資料の 3 ページを御覧ください。

歳入歳出予算総括表でございますが、この度の補正予算案では 850 万円の増額補正をお願いしております。

次に、4 ページを御覧ください。

補正予算に係る事業について御説明いたします。

資料記載のとおり、警察署整備事業費として計上しております今次補正予算案では、施設の老朽化対策や耐震性能の確保が必要な阿波吉野川警察署の庁舎整備について、今後の事業者募集・選定などに専門的支援を受けるための阿波吉野川警察署整備事業支援業務に要する経費を計上しております。

次に、5 ページを御覧ください。

債務負担行為について御説明いたします。

先ほど御説明いたしました支援業務は、今年度、令和 7 年度及び次年度、令和 8 年度での実施を予定しており、複数年契約を締結する必要があります。

このため、次年度、令和 8 年度に必要な経費 2,650 万円について、補正予算案と併せて債務負担行為の議決をお願いするものであります。

以上、令和 7 年度一般会計補正予算案について御説明申し上げます。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

田中警務部参事官兼首席監察官

私からは、損害賠償の額の決定及び和解に係る専決処分について報告いたします。

交通事故が7件、取締行為に伴う物損事故が1件でございます。

お手元の説明資料の6ページを御覧ください。

交通事故についてでございます。

1件目は、本年1月21日、徳島名西警察署員の運転する交通事故処理車両が道路から駐車場へ進入するため左折した際、ブロック塀に衝突した物損事故で、賠償金額5万5,000円で和解いたしました。

2件目は、本年2月13日、徳島中央警察署員の運転する捜査用車両が青信号で発進した際、前方で停車していた車両に追突した人身事故で、賠償金額44万5,234円で和解いたしました。

3件目は、本年2月20日、徳島板野警察署員の運転する捜査用車両がきょうあいな山道で対向車を避けるため後退した際、金網フェンスに衝突した物損事故で、賠償金額7万4,668円で和解いたしました。

4件目は、本年3月14日、徳島板野警察署員の運転するパトカーがきょうあいな道路を左折した際、民家の門壁に衝突した物損事故で、賠償金額9万5,508円で和解いたしました。

5件目は、本年4月5日、阿波吉野川警察署員の運転する捜査用車両が進行中、対向車両とミラー同士が接触した物損事故で、賠償金額54万3,000円で和解いたしました。

続いて、説明資料の7ページを御覧ください。

6件目は、本年5月15日、徳島板野警察署員の運転するパトカーが臨場現場の敷地から道路に出るため左折した際、コンクリート壁に衝突した物損事故で、賠償金額6万500円で和解いたしました。

7件目は、本年5月19日、刑事部捜査第一課員の運転する捜査用車両がきょうあいな道路を左折した際、民家に設置されたガードパイプに衝突した物損事故で、賠償金額3万円で和解いたしました。

次に、説明資料の8ページを御覧ください。

取締行為に伴う物損事故についてでございます。

本年7月1日、徳島板野警察署員が交通指導取締中、車両誘導の際、装着していた装備品が駐車車両に接触した物損事故で、賠償金額12万2,837円で和解いたしました。

私からの報告は以上でございます。

児玉警察本部長

私から、1点御報告させていただきます。

本年2月に、阿波吉野川警察署庁舎整備に関し、その基本的な考え方を示す基本構想について御報告させていただきました。

その後、この基本構想に沿って、同庁舎整備に係る事業範囲及び事業手法について、民間事業者の意向や財政負担の縮減効果、事業スケジュール等の比較検討を行った結果、設計業務、建設業務等を一括して民間事業者が発注するDB、デザインビルド方式が最適であると判断し、さきに御説明いたしました補正予算案を提出させていただいたところであり、その検討の概要について御説明させていただきます。

資料の阿波吉野川警察署庁舎整備民間活力導入可能性調査状況報告を御覧ください。

まず、新庁舎の整備場所は、昨年9月に御報告いたしましたとおり、吉野川市鴨島町所在の旧農業研究所鴨島分場であり、現時点においては、新庁舎の規模を5,000㎡程度と想定しているところであります。

次に、新庁舎整備に伴う事業範囲といたしましては、設計、建設、解体、維持管理、運営業務が想定され、これら業務を包括的に行う事業手法の中で、警察署整備において導入が想定されるのは、PFI方式、DBO方式、DB、デザインビルド方式と考えており、これら方式の特徴は1ページ目右下の表に記載のとおりでございます。

2ページ目を御覧ください。

これら手法の導入を検討するに当たっては、民間事業者の意向を的確に把握する必要があり、本年度実施している委託業務の中で、その調査を実施いたしました。

事業者からの回答内容の主なものといたしましては、希望する整備手法については、DB、デザインビルド方式が最多でありました。

工期については、基本構想段階では、設計1年、建設2年、解体1年と想定していたところ、半数以上の企業から妥当との意見を頂きましたものの、妥当でない、つまり延伸すべきとの意見も多く頂いたところであります。

本事業への参画意向については、多くの事業者から参画したいとの回答を頂いており、適切な条件を整えることで、競争性確保やクオリティの高い提案が期待できるものと考えております。

続きまして、財政負担縮減効果については、PFI方式では縮減は見込めないとの結果になったものの、DBO方式、DB方式においては、約2%から約7%の財政負担の縮減効果が期待されるところの結果になりました。

また、さきに申しました工期に関する事業者意見を踏まえ、設計・建設期間を3年6か月とした上での想定される事業スケジュールにつきましては、いずれの整備手法においても令和12年度の新庁舎完成が見込まれるところでありますが、DB方式においては、他の方式と比較して、一定の事業期間短縮が見込まれております。

これら調査結果から、阿波吉野川警察署新庁舎整備にはDB方式が最適と判断したところであります。

県警察においては、一日も早い新庁舎整備に向けて全力で取り組んでまいり所存でございますので、議員各位の御理解を賜りますようお願いいたします。

報告事項は以上でございます。

古野司委員長

以上で説明等は終わりました。

これより質疑に入りますが、事前委員会の質疑につきましては、提出予定議案に関連する質疑及び緊急を要する案件とする申合せがなされておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは質疑をどうぞ。

眞貝浩司委員

先ほど説明していただいた阿波吉野川警察署整備事業について、お伺いしたいと思いま

す。

整備事業については、当時から我々の会派の大塚議員なども、本会議でより早く整備していただきたいと訴えており、それに応える形で、こうして本年度途中に検討結果を頂いて、補正予算を計上していただけるということで、県警の本気度が伝わってくると思っております。

一方で、事業については今後、いろいろと精査するものもあると思いますが、いずれにしても大きな経費を要する事業となるわけですので、我々としても、しっかりと見ていかなければならないと考えているところでございます。

そこで、政府の指針にもありますように、公共施設の老朽化が社会問題となる中、民間ノウハウ等を活用し、効率的に整備を進めていこうというものであり、県においても、これを優先的にやろうという規定が策定されております。

県警では、徳島中央警察署整備で全国に先駆けて P F I 方式を導入して、現在のような立派な施設ができておるわけですが、今回は、P F I 方式では効果なしという結果であったということでございます。

徳島中央警察署の場合と阿波吉野川警察署との違いや、今回採用するデザインビルド方式のメリットなど、県警ではどのように分析しているのかお伺いしたいと思います。

富永警務部参事官兼会計課長

P F I 方式につきましては、設計、施工、維持管理、運営といった業務を包括して行うことにより、財政負担の縮減効果を発生させるという特徴があります。

徳島中央警察署整備事業では、警察署庁舎のみならず、警察本部庁舎の維持管理業務等も整備事業に含めることにより、P F I 方式を採用できる事業規模を確保したものでございます。

阿波吉野川警察署整備につきましても、P F I 方式を含めて事業手法の検討を行ってまいりましたが、事業規模などから P F I 方式での財政負担の縮減効果が認められなかったものであります。

一方、設計、施工を一括発注するデザインビルド方式によりましては、財政負担の縮減効果が認められたほか、P F I 方式などと比較して事業スケジュールの短縮も見込まれるなどのメリットも認められるところでございます。

眞貝浩司委員

規模の大きさが違うということで、P F I 方式が向かないとの判断と取っていいわけですね。大きさと運用の仕方も違うということで、それでやはり違うということになったということですね。

事業スケジュールについても、前倒しで検討していただいたものの、事業者の意見を踏まえて工期を延伸したことで、結果として完成時期は基本構想時点とそう変わらないということでございます。

昨今の建設業界においては、人員確保に非常に苦勞する一方でその働き方改革も求められており、工期で無理をさせてはいけないということもあり、他方で少しでも早く整備していただきたいという県民の思いもあるわけでございます。

その点、早期整備に向けて、更に工夫できる余地があるのかないのかという点について、お伺いしたいと思います。

富永警務部参事官兼会計課長

基本構想では、今年度末までに本事業に最適な事業手法について決定することとしておりましたところ、早期整備の重要性に鑑み、可能な限りスケジュールを前倒しするため、この度、事業手法を決定し、関連する補正予算案を計上させていただいたところであります。

一方で、一定の事業者から、設計、建設の工期延伸を求める御意見があったことも踏まえまして、必要な工期を見直したものでございます。

県警察といたしましては、早期整備の重要性を強く認識しており、事業者選定における審査基準において、工期の短縮につながる内容を含めるなどの方策を検討するなど、引き続き、早期整備に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

眞貝浩司委員

全国的に公共工事で入札が不調と、全国だけでなく、我が県にも不調の案件があるようでございます。

この案件、阿波吉野川警察署につきましては、この22社から参画したいという御意見も出ているようでございます。

今回の事業では、そのような事態になれば、事業スケジュールもいろいろな問題が出て大きく影響するものが出てくる可能性もあると思います。入札募集に向けて、事業者が参画を前向きに検討するような工夫が必要だと思うのですが、県警はどのようにお考えかをお聞きしたいと思います。

富永警務部参事官兼会計課長

現在実施しております阿波吉野川警察署庁舎整備民間活力導入可能性調査の中で、事業者の意向を確認いたしましたところ、多くの事業者から本事業に対し、参画したい又は条件次第では参画したいとの御意見を頂いたところであります。

できる限り多くの事業者に参画していただくため、公平性、透明性に配慮しつつ、引き続き事業者に対するヒアリングなどを行い、事業者が想定する課題や要望の把握に努めてまいりたいと考えております。

眞貝浩司委員

阿波吉野川警察署の整備に向けては、これだけ掛かるということでございますので、しっかりと進めていただきたいと思います。また、阿波吉野川警察署の整備に、いろいろな時間も掛かったようでございますし、その場所を決めるのも時間が掛かっております。

徳島県においては、南海トラフ巨大地震の発生が懸念されておるところで、県警察といたしましては、私が前から聞いております機動隊とか、牟岐警察署の問題もあると思いますので、入札不調のようなことが起こらないように、そして事業が遅れないように、民間の市場動向も確認しながら、着実に事業を進めていっていただきたいと思います。お願いして、質問

を終わらせていただきます。

達田良子委員

ただいまの質問に関連してお聞きしたいと思います。

阿波吉野川警察署庁舎ですけれども、一日も早くということを県民の方も望んでおられると思います。先ほどの御説明の中で、一部に延伸をお願いしますというような声もあるということなのですが、長引けば長引くほど、今、資材の高騰や人材不足とかで、どんどんと事業費が膨らんでいってしまうおそれもあると思うのです。

今、総額で幾らを予定していて、それで、この総額をこれ以上増やさないという決意で臨まれるのかどうか、まずその点をお尋ねしておきたいと思います。

富永警務部参事官兼会計課長

この度、事業手法の検討を行うため、財政負担の縮減効果を比較するに当たりまして、業務範囲を設計、建設、解体、約15年間の維持管理と設定いたしまして、現時点で見込まれる事業費を算定したものでございます。

昨今の建設市場は、急激なコスト高騰の傾向が続いておりますことから、次のアドバイザリー事業等の中で、引き続き最新の建設市場の動向を把握しながら、実勢価格に合った事業費の算定を進めてまいることとしておりまして、具体的な金額につきましては、今年度末にもお示ししたいと考えておるところでございます。

達田良子委員

これまで、警察署として大きな工事をしてきましたよね。このときに、先ほどもお話がありましたPFI方式を導入することについて、私は、これは地元業者のもうけにならないのではないかと意見を申し上げてきたんですけれども、今回、DB方式でいこうと固まってきたということですが、PFI方式と比べてどういう利点があるのか、その点お尋ねいたします。

富永警務部参事官兼会計課長

PFI方式と比較してということでございますが、先ほど御説明いたしましたとおり、デザインビルド方式は設計、施工を一括して発注するものでございまして、維持管理業務や運営業務が入っておりません。

先ほども御答弁させていただきましたが、阿波吉野川警察署の規模では、運営等々を総合的に勘案いたしますと、まず財政的な縮減効果が一番見られたところございまして、そういった意味でも今回の整備事業におきましては、このデザインビルド方式が一番適していると考えているところでございます。

達田良子委員

この表を見ますと資金調達、それから維持管理運営が公共ということになっております。

ある公共事業で、PFI方式で担当してきたある業者にお話を伺ったのですが、小さな花壇のような植栽、木を植えたりする仕事で、小さな狭い所だったから、これは幾ら何で

も直してくれたのだろうと思って仕事をしてきたら、下請だったということで、下請とか孫請になりますと直接もうけさせてもらえない仕事なんです。

こういうことはないのか。地元の業者を大事にするということで、徳島県は県内企業優先が基本姿勢になっておりますけれども、これを基本として県内業者をお願いして、メンテナンスもみんな県内業者をお願いしていくことになるのか、その点をお伺いしておきたいと思います。

富永警務部参事官兼会計課長

本事業の事業費につきましては、先ほども答弁いたしましたとおり、現時点では未定でございますが、政府調達協定対象の大規模工事になった場合におきましては、国内外の企業を問わず広く公募の上事業者を募る必要がございます。入札希望者の地域限定はできないものであります。

一方で、県内企業の参画は重要な要素と考えており、事業者選定における審査基準におきまして、県内企業の参画を促すような内容を含めるなどの方策を検討してまいりたいと考えております。

達田良子委員

維持管理の仕事は、実際には県内業者が大体なさっているのですけれども、直で受けているのではなくて、結局下請ということが非常に多いわけなんです。

そういうことでなくて、県内業者と直に仕事ができるような状況を実現していただきたいと思いますので、是非その点、よく御配慮をお願いしておきたいと思います。よろしく願いいたします。

それともう1点、警察車両の交通事故が毎回報告されるのですが、私も運転は上手ではありませんので、人の運転のことを言える立場でもないのですが申し訳ないのですけれども、次々と車両が当たったと、人身事故がないだけ本当に幸いかなと考えているのですが、ブロック塀に衝突とか、フェンスに衝突とか、民家の門扉に衝突とか、いろいろあります。こういうことが起きておりますと、乗務している方、職員さんの安全に関わってくると思うのです。

ですから、事故はなくしていかなければいけないと思うのですが、この賠償金額の中に、自分のほうの車、パトカーとか捜査車両が壊れたのを直したお金も入っているのですか。

日下警務部監察課長

賠償事案として専決処分報告をしているこの金額におきましては、当方の車両の修理金額は含まれておりません。

達田良子委員

今回、賠償金額だけをお知らせいただいているのですが、車両を直すのにどれだけ掛かったかとか、再発防止のためにどうしたらいいのかというのも、今後、きちんと報告書として上げていただきたいと、是非お願いしておきたいと思います。

特に、板野郡のミラー同士が接触したというので54万3,000円も掛かっていますが、ミ

ラーはそんなに高いのでしょうか。

日下警務部監察課長

修理に関しましては、先方が当然修理見積り等々を出してきておりまして、ミラーの修理に関しまして他の部分等々がありますので、そういったところで算定しているところでございます。

達田良子委員

ということは、ミラーの修理だけでこれだけ掛かっているということですか。

日下警務部監察課長

当該費用に関しましては、ミラーの修理費プラス代車費用等々も含まれておりますので、代車費用も含まれているということでございます。

達田良子委員

私も軽四の小さい車しか乗りませんので、一体どれぐらいの値段なのかが分かりません。すごく高いと思いまして、びっくりしているのですけれども、こういう事故が起こりましたときに、再発防止を。1回も事故せずにいきなさいとは言いません。人間ですからやはりミスもしますし、うっかりしているときもあると思うのです。

余りにも毎回毎回出てきますので、事故を起こしているうっかりミスというのは、もし車が壊れても公費で直してくれる、賠償も公費でしてくれるので、全然自分の懐が痛まないわけなんです。ですから、私は気が緩みすぎているのではないかと思えて仕方がないのですが、そういうところで、事故を起こさないための再発防止、安全運転をしていくための方策をどういうふうに立てているのか、その点を伺っておきたいと思います。

田中警務部参事官兼首席監察官

警察職員による交通事故につきましては、絶無を期すべきものと認識してございます。

警察本部の所属及び警察署におきましては、法令で定められました安全運転管理者に選任してございます警察本部の次長及び警察署の副署長が、所属職員の運転適性を把握した上で、定期的に、また交通事故の機会を捉えて、交通事故の防止に向けた教養及び個別指導を行っているところでございます。

具体的には、警察職員であることを常に自覚し、道路交通状況を十分に勘案した上での安全確認や、走行方法に細心の注意を払った運転を励行するよう指導しておりますほか、先ほど報告させていただきましたように、左折時や後退時の事故など、具体的な事故事例を踏まえた実車教養を実施してございます。

9月中旬には、各所属の安全運転管理者に対する交通安全教育や、安全運転管理に必要な知識、技能の更なる向上に向けた研修会を予定しておりまして、これまで以上に安全運転管理を徹底いたしまして、職員の交通事故防止に努めてまいりたいと考えてございます。

また、先ほど委員から御指摘がございましたように、修理には公費を投入していることにつきましても、職員に対して、しっかりと指導教養をしてまいりたいと考えてございま

す。

達田良子委員

是非、職員の安全、それから県民の安全に気を付けていただいて、しっかりと安全運転ができて、職務が安全に遂行できるように取組を進めていただきたいと思いますので、このことを申し上げて終わります。

古野司委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、公安委員会関係の調査を終わります。

議事の都合により、休憩いたします。（11時05分）